

「ヒューマンセントリック・インテリジェントソサエティ」の実現を目指して、先端技術の研究開発に取り組みました。当期における研究開発費の総額は1,798億円となりました。当期における主な取り組みの考え方とその成果は以下の通りです。

「ヒューマン・エンパワーメント」

①人と情報を結び様々な場所の活性化を目指した技術、それらを支える先進のIoT (Internet of Things) 技術の研究開発をしました。

- ・空間をデジタル化するUI技術を開発しました。各自が持つスマートフォン情報を机や壁に投影、手書きメモを記入、簡単な操作でデータ交換が可能です。ICTを使った共創支援としてワークショップの現場で実証実験をしています。
- ・多種多様なIoTデバイスを簡単に管理できるソフトウェアプラットフォームを開発しました。情報形式を同一にするため、障害検出に必要な情報の一元管理が可能になります。



「クリエイティブ・インテリジェンス」

②加速するAI (人工知能) のさらなる発展に向けた技術と金融業界に向けたフィンテック、情報社会から人や組織を守る多角的なセキュリティ技術の研究開発をしました。

- ・AI技術を「Human Centric AI Zinrai (ジンライ)」として体系化し、そのサービスを強化する研究開発をしています。新たなディープラーニング技術により、IoT機器などから得られる時系列データの分析精度を25%向上させました。
- ・オープンデータが最新であることを保証した金融機関向けデータ分析プラットフォームを開発し、データ分析を容易にしました。また、国境を越えた証券クロスボーダー取引の決済業務期間を即日化する実証実験を実施しました。ビッグデータ・アナリティクスやブロックチェーン技術の活用により、利便性の高い金融システムの実現を目指します。
- ・利用者のいつもと違う操作から標的型メール攻撃をリアルタイムに検知する技術を開発しました。ネットワークを監視する技術と組み合わせ、組織や個人のリスク状況を素早く把握します。



「コネクテッド・インフラストラクチャー」

③ICTインフラを強化する次世代の通信やサーバの高性能化、信頼性向上に向けた技術の研究開発しました。

- ・100キロメートル圏内のデータセンター間の大容量通信を低コストで接続できる、400Gbps 光送受信方式を開発しました。次世代の大容量通信に向けて適用して行きます。
- ・特定用途に絞ったドメイン指向サーバの研究開発を進めています。膨大な画像データから目的の画像を検索する専用サーバを試作し、従来の50倍の速さで実行できることを確認しました。また、ゲノム情報の解析処理をデータベース上で従来の400倍高速化する技術を開発し、ゲノム医療研究や分子情報などのビッグデータ解析に貢献します。



*バーコード読み取り機能付の携帯電話またはスマートフォンを利用して、上のQRコードを読み取り、当社ウェブサイト (FUJITSU JOURNAL) にアクセスし、該当案件の詳細をご参照いただけます。なお、操作方法の詳細につきましては、お持ちの携帯電話またはスマートフォンの取扱説明書をご確認ください (インターネットのご利用環境、ご加入のサービスやご使用の機種によっては、ウェブサイトをご利用いただけない場合があります)。

*上記サイトへのアクセスに際して発生するインターネット接続料、通信料等は、株主様のご負担となります。